

キャリア教育に関する研究

—農業教育における体験活動の展開方法—

高知県立幡多農業高等学校 教 諭 山下 和利

生徒一人一人に「生きる力」を育んでいくことは、今の教育の重要課題として位置付けられ、キャリア教育の推進が求められている。農業高校では、農業教育の肝要である体験活動に対して、キャリア教育の観点で教職員が指導・支援する必要があると考えられる。今までの体験活動をキャリア教育の観点で見直し、キャリア発達を目的とした体験活動が展開されることで、農業に対する理解を深め、自分の生き方と結び付けて考え、歩んでいくことができる生徒を育んでいくと考えられる。農業教育の中でキャリア教育を推進していくための、キャリア発達の観点を明確にした農業体験活動プログラム及び活動支援用のツールについて研究した。

キーワード：キャリア教育、キャリア発達、生き方、農業体験活動、農業教育

1 はじめに

(1) 研究内容の方向付けについて

学校から社会への移行をめぐる課題や、子どもたちの生活・意識の変容を背景として、個人が主体的・自立的に行動するための基本となる資質や能力である「生きる力」を育んでいくことが求められ、キャリア教育が推進されてきている。キャリア教育は、様々な役割を果たしていくべき人生の中で、どのように学び、働き、生きていくのかを主体的に選択・決定できる力を育む教育であり、キャリア発達支援や職業人・社会人としての資質や能力の向上、豊かな人間性の育成等をねらいとして、子どもたちを支援していくことが求められている。

一方、農業高校を取り巻く環境は大きく変化している。これまで農業従事者を養成する役割を担ってきたが、高知県内の農業高校では、第1種兼業農家、第2種兼業農家を含めても農家出身の生徒の割合は大変低く、卒業後に農業関係以外の進路選択をする生徒が多くなってきている。また、自分の生き方について考え、決定することができない生徒や、農業を通して学んだことや身に付けたことを自分の生き方と結び付けることができない生徒も増えてきている。

このような生徒の現状を踏まえ、これからの農業教育では農業に対する理解者を育成していくことが重要課題であると考え。農業に対する理解とは、農業教育を通して学んだ知識や技術はもちろん、身に付けた様々な能力が、自分の人生の様々な場面で生かすことができると理解することである。農業に対する理解者を育成するためには、農業を通して生徒たちに生きていく中で必要となる様々な力を育み、生き方について考えさせるような指導・支援していく必要があると考え、これからの農業教育をどのように取り組んでいけば良いか探究することにした。

(2) 農業教育の方向性について

農業高校を取り巻く環境の変化と生徒の現状から、これからの農業教育が目指すものは、豊かな人間性を持つ人を育てる、農業以外の職業に就いても、身に付けた知識や技術、能力を生かすことができる人を育てる、農業分野のスペシャリストとして活躍できる人を育てる、の3つであると考え¹⁾。このような生徒を育成するためには、命を育み、自然との関わりの中で思いやりや感動する心を育み、その大切さを認識させるとともに、農業についての知識・技術を学ぶ中で、興味・関心を高め、どのような力を育んでいくか明確にし、生徒に考えさせ、取り組ませる必要がある。農業を通じた学びと生き方とを結び付ける指導・支援をしていけば、生徒一人一人が生き方について考え、決定することができるようになると期待され、農業に対する意欲・関心も向上し、学びを深めることができると考えられる。

(3) 農業体験活動の重要性について

体験活動には、職業や仕事の世界についての理解促進、勤労観・職業観の形成、自己の可能性や適性の理解、自己有用感等の獲得、学ぶことの意義の理解と学習意欲の向上等、様々な効果が期待されると、キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書で報告されている。また、個々人の思考や理解のもとになるものは、具体性を持つ事物に直接触れることによって可能となる²⁾と述べられており、体験活動の重要性を認識することができる。

農業高校における体験活動は、総合実習や教科内実習、課題研究等の科目の履修上に位置付けられ、科目との関連性を持った内容で、保育園児や小学生、高齢者等との交流体験活動も盛んに行われている。これらの農業を通した体験活動から、命の大切さや農業の持つ様々な側面について理解させることが期待される。農業体験活動は、学んだ知識や技術を実践することだけにとどまらず、農業に対する興味・関心を高めるとともに、思考力や応用力の育成を図ることも可能である。また、交流体験によって、人間関係を形成し、農業の必要性や農業の持つ様々な効果等、体験活動にかかわる多くの人々に理解させることも期待される。

このように、農業高校における農業体験活動においては、農業に関する知識や技術の習得のみならず、豊かな人間性を育み、勤労観・職業観の形成を図ることで、「学ぶこと」や「働くこと」、「生きること」について考えさせ、「生きる力」を身に付けて人生を歩んでいくことができる生徒を育成することが、肝要であると言える。

(4) キャリア教育の必要性

これからの農業教育が目指している生徒を育成するためには、指導・支援する中で具体的にどのような力を身に付けさせていくかを明確にする必要があると思われる。自分の生き方について考えさせるには、キャリア教育の観点で指導・支援することが有効であると考え、農業体験活動に対しても、キャリア教育の観点での指導・支援に取り組んでいく必要がある。農業体験活動が一過性の活動として終わることがないように、活動を通してどのような力を育み、どのように生き方と結び付けさせていくのか、具体的な計画をもとに実施し、活動に対する評価・改善を行って、次の活動につながりを持たせていくことが必要である。体験活動に対する価値付けや意味付けをするうえで、キャリア教育の観点は重要な役割を果たし、必要性があると考えられる。

2 研究目的

農業体験活動は、生徒一人一人の農業に対する理解を図る重要な場であるとともに、自分の生き方と結び付け、歩んでいくための経験の場となる、農業教育の肝要である。農業体験活動をキャリア教育の観点で見直し、指導・支援することは、農業に対する理解者を育成して、「生きる力」を育み、これからの農業教育が目指している生徒の育成につながるのではないかと考える。

3 研究内容

(1) 基礎研究

ア 農業体験活動に対する現状と課題

高知県内の農業に関する学科を有する高校（A高校、B高校、C高校）で、体験活動に対する聞き取り調査を行った。聞き取り調査の対象は、体験活動を担当する教職員、農場長等の専門家を総括する教職員数名である。

調査の中でいくつかの問題点が明らかとなった。計画的に行われていない活動が多いこと、活動のねらいが明確でないまま行われていること、実施することだけにとどまり、事前指導・事後指導が十分に行われていないこと、活動に対する反省や改善の協議が行われていないこと等である。これらは主に交流体験活動に対するものであるが、活動を実施することに重きが置かれてしまい、何のために活動するのか、活動を通して何を学ばせるのかという観点が欠如し、活動に対

する反省や改善点について協議し、次の活動に対してどのように取り組んでいくのかを協議する場が設定されていない現状である。

また、総合実習や教科内実習では、知識や技術の習得状況と、関心・意欲・態度に対して評価することに重きが置かれ、実習中に思考や判断を必要とする場面の設定や、展開方法の工夫、過程を見る観点に乏しいことが明らかとなった。

これらの問題点を解決していくことが、体験活動を充実させ、農業に対する理解を図り、生き方について考え、結び付けていくことができるようにするための経験の場になると考えられる。

イ キャリア教育に対する認識

平成 19 年 7 月 31 日～8 月 3 日に開催された「キャリアカウンセリングセミナー」の参加教職員に対するアンケートでは、「キャリア教育は生徒支援に役立つか」という設問に、全員が役立つと回答しているが、自由記述の欄には、「キャリア教育の必要性を多くの教職員に分かってもらいたい」や「キャリア教育に対する研修をいろんな教職員にしてもらいたい」という回答があり、必要性を感じながらも、多くの教職員のキャリア教育に対する認識が依然として低いことを示唆している。

ウ 高校生の進路状況

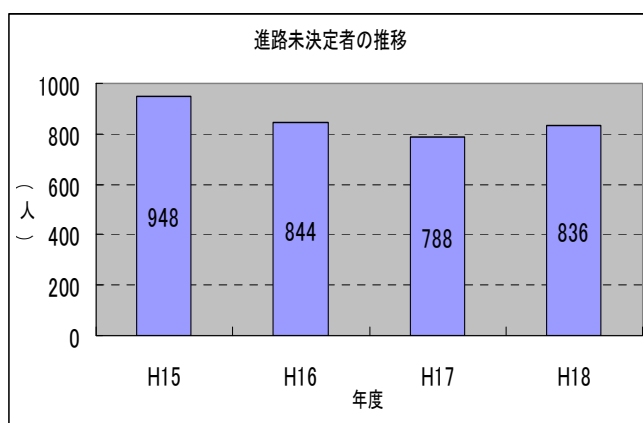
図 1 で示すように、高知県内には卒業時に自分の進路を決定することができなかった生徒が多くいることが分かる（就職未決定者・進学未決定者含む）。少子化の影響で生徒総数が減少しているので実数は減少しているが、割合は減少していない。就職や進学を希望していたが決定することができなかった生徒だけでなく、それさえ決めることができなかった生徒も多くいることが分かった。

また、図 2 は高知県内の農業に関する学科を有する高校における、進路未決定者の推移を示した（平成 19 年度の進路未決定者は、進学未決定者をのぞく 1 月末現在の人数である）。このように、自分の進路を決定することができない生徒が多くなってきている。これは、各校における進路指導上の問題にはとどまらず、農業をはじめとした教科等の中でも、勤労観・職業観を育み、生き方について考えることができるような指導・支援の在り方について、抜本的な見直しが必要であると考えられる。

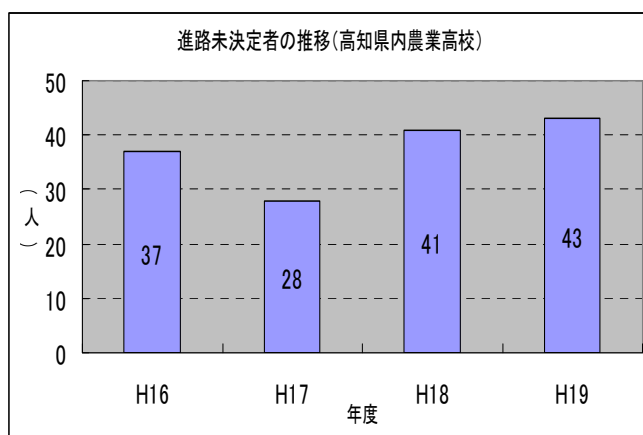
(2) 実態調査

ア 高校生スキルアップ講習会

就職試験の事前対策及び社会の中で必要となるマナーやスキルの向上を目的として、各校で取り組んでいるスキルアップ講習会がある。参加生徒の多くは、真面目に講習を聞いて取り組むことができていたが、主体性や積極性、自己理解、他者理解、集中力等が十分であると感じられず、学校教育の様々な場面で育成していくことが必要であると感じた。就職試験前の数日間ではなか



【図 1】 県内公立高校の進路未決定者の推移

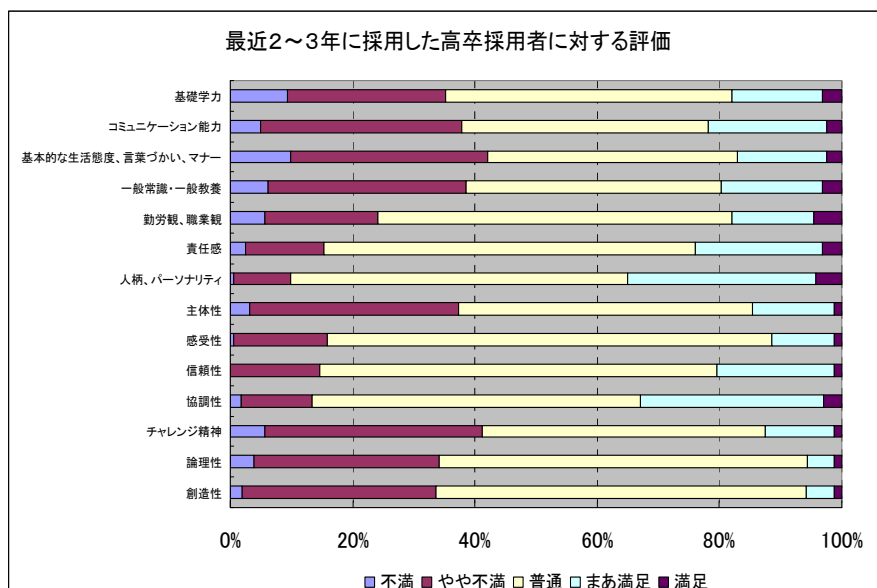


【図 2】 県内農業高校の進路未決定者の推移

なか定着しない力もあるので、普段のあらゆる教育活動において、様々な力を育成するための指導・支援が必要であると考えられる。

イ 高卒採用者に対する評価

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」の最近2～3年に採用した高卒採用者に対する評価で示されているように（図3）、社会が高校生に求めている能力や態度は、基本的な生活態度・言葉遣い・マナー、チャレンジ精神、一般常識・一般教養、コミュニケーション能力、主体性である。このような能力や態度を身に付けさせるためには、理解させること、実践さ



【図3】最近2～3年に採用した高卒採用者に対する評価

せることが必要であり、そのための指導・支援を学校全体で取り組んでいかなければならない。

(3) 実践研究

ア 農業体験活動プログラムの必要性

農業体験活動は、生徒一人一人の農業に対する理解を図る重要な場であるとともに、自分の生き方と結び付け、歩んでいくための経験の場となることから、農業体験活動をキャリア教育の観点で見直し、指導・支援する必要があると考え、農業体験活動プログラムを作成する研究に取り組むことにした。

このプログラムでは、農業体験活動の目的・目標を明確にし、活動効果を高めるための指導上の留意点、各活動に対するキャリア発達の観点を明示することで、体験活動の充実を図るために必要なことを示し、見直しを図るために活用することを目的とする。これまでの活動との違いが具体的に理解できることが必要であるとする。

イ 農業体験活動プログラムの作成

(ア) キャリア教育に対する理解を図る

本県では教職員のキャリア教育に対する認識が低いことから、キャリア教育の基本について理解を図るために、キャリア教育に関するページを作成した。このページを通して、キャリア教育とはどのような教育か、どんなねらいがあるのかを知ることができるように留意した。そして、「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」（国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002年11月）で示された、職業的（進路）発達にかかわる諸能力（表1）、職業的（進

【表1】職業的（進路）発達にかかわる諸能力

領 域	能 力
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意思決定能力	選択能力 課題解決能力

路) 発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度を示し、各能力について理解し、高等学校での具体的な能力・態度が分かるようにした。どのような能力が生き方を考え、決定していくうえで必要となるのかを理解しておくことで、体験活動のねらいを明確にし、具体的な計画をすることができると考えられる。

(イ) 体験活動の目的や実施方法に対する理解を図る

体験活動のねらいを認識すること、目的に沿って実施するためには、どのような手順で行う必要があるのか理解すること、活動形態に対する工夫の必要性を認識すること等を目的として、体験活動に関するページを作成した。PDCA サイクルの重要性を示すとともに、それぞれの過程において、必要となるポイントを示した。これまでの体験活動の実施に欠けている部分を把握し、計画から改善までの一連の過程の重要性に気付かせることができると考える。

(ウ) 農業教育が目指す方向性の提案

これからの農業教育がどのような生徒を育んでいくことを目指すのか、その方向性について提案するために、豊かな人間性を持つ人を育てる、農業以外の職業に就いても身に付けた知識や技術、能力を生かすことができる人を育てる、農業分野のスペシャリストとして活躍できる人を育てる、の3つの事柄を示した。これまで、農業従事者の養成という大きな役割を担ってきた農業高校であるが、現状に即した農業教育の展開が求められている。農業について教えるという観点はもちろん、農業を通して教えるという、知識・技術以外の能力・態度も育む必要があることを認識してもらう目的で示した。農業体験活動を通して習得させる知識・技術、様々な能力・態度が、農業に従事する場面だけでなく、他の様々な場面で生かせるように、指導・支援の方法を考えていかなければならない。

(エ) 農業体験活動プログラム

生徒の活動内容、指導上の留意点、キャリア発達の観点の欄を設定し、事前指導から事後指導までのそれぞれの活動についてキャリア発達の観点を示した。キャリア発達の観点については、活動目標とのかかわりが大きいものは青字で示した。また、それぞれの観点の後ろには、結び付きの強い能力の略号を赤字で示した(図4)。体験活動を行う生徒にとって大切なことの1つに、主体的な学びによる

自己有用感の獲得がある。自他からの承認は向社会的行動につながり³⁾、社会の中で自分の何を生かして、どのように生きていくのかを考えることにつなが

っていくと期待される。そのためには、やらされ感を排除した主体的な学びとなるように活動を工夫して、ねらいに沿ってどのように指導するかが重要であると考えられる。

また、キャリア発達の観点を抜き出し、それぞれの観点に対してどのように生徒を見ていけば良いか、キャリア発達の観点に対する教職員の視点として補足的に示した(図5)。ここで示すような視点で一人一人の生徒を見ていくことで、キャリア発達を確認し、個々に応じた指導・支援をすることができると考えられる。

事前指導		
生徒の活動	指導上の留意点	キャリア発達の観点
○交流先の人たちについて知る。	○交流する相手がどのような人たちであるかを教える。相手に応じて考える必要があることを理解させる。	○交流相手について知り、相手に応じた対応とはどのようなことか考えることができる。 自
○活動内容について考える。	○交流先の施設で行う活動について各グループで考えさせる。可能な範囲内で自由に考えさせる。	○これまでの学習を生かし、相手と交流ができる活動内容を考えることができる。 自・情・計
○活動の内容や手順について考え、話し合わせて書かせる。	○活動の内容や手順、準備物等について考えさせ、話し合わせて書かせる。	○自分や他者を理解し、活動内容や準備物について考え、話し合うことができる。 自・コ・情
○活動時の注意点について考える。	○活動時の注意点について考えさせ、書かせる。道具の使用や説明の仕方、補助の仕方等についてできるだけ細かく考えさせる。	○活動の対象者にはできないことや知らないことを考え、支援の方法や教え方を見出そうとしている。 自・役

【図4】農業体験活動プログラム

このように、農業体験活動プログラムを活用してこれまでの活動を見直すことで、一つ一つの活動にキャリア発達の観点があることや、1つの活動でも、いくつものキャリア発達と結びついていくことが把握でき、

これまでの活動と違うところや足りなかったことを見出すことができると考えられる。そして、今後の活動に対して、生徒に何を育てていくか考え、どのような指導・支援をしていくか計画し、実施することができると期待される。

ウ 農業体験活動支援シートの作成

(ア) 農業体験活動支援シートの目的

農業体験活動プログラムと併用して、活動を支援する有用なツールがあれば、体験活動の充実をより図ることができると考え、農業体験活動支援シートを作成する研究に取り組んだ。農業体験活動の計画性・系統性を高め、PDCA サイクルに沿った適切な活動にすることを目的とした。キャリア教育、体験活動の両者において、計画、実施、評価、改善の過程は必須であると示され、PDCA サイクルを確立させることは重要である。

(イ) 体験学習計画シート

事前指導において、活動の目標を明確にさせ、活動の計画を自分で作成することで、計画性を持って臨み、内容に対する理解を深めることを目的とした。生徒に活用させることで、計画実行能力、役割把握能力の向上が期待される。

(ウ) 体験活動振り返りシート

「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」（国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 年 11 月）で示された、職業的（進路）発達にかかわる諸能力をもとに設定した 8 つの項目について、自己評価し、振り返って今後の自分に対する目標を立てさせることを目的とし、事後指導で生徒に活用させるシートである。自分を客観的に評価するとともに、自分や他人の良さに気付かせ、これからの自分に対する目標を考えさせることで、自他の理解能力、課題解決能力の向上が期待される。

(エ) 体験活動評価シート

教職員が体験活動の評価、改善するために実施後に活用するシートである。体験活動について評価・改善を行う際に必要と考えられる項目を選定し、反省点や改善点を協議し、次の活動につなげて系統性を持たせることを目的とした。書面に残して明確に示すことで、体験活動に対する反省点や改善点を教職員が共有し、協議することができると期待される。

(オ) 実習の記録

総合実習・教科内実習で活用する、職業的（進路）発達にかかわる諸能力をもとに設定した 8 つの項目について、自己評価し、自分と他者の良かった点を記述させることで、自己有用感の獲得を目的としたシートである。このシートは実習後に生徒に記入させ、ファイリングしてポートフォリオとして活用するものである。また、教職員は実習後に一人一人の生徒のキャリア発達を確認することができ、個々の生徒に応じた指導・支援方法について考えることができると期待される。

(カ) 実習振り返りシート

キャリア発達の観点に対する教師の視点	
キャリア発達の観点	
事前指導	
○交流相手について知り、相手に応じた対応とはどのようなことが考えられるか。	目
○相手とどのように交流すればよいか考えているか。	視
○これまでの学習を生かし、相手と交流ができる活動内容を考えることができる。	自・情・計
○これまでに得た知識を用いて、相手に応じた交流内容を計画できているか。	視
○自分や他者を理解し、活動内容や準備物について考え、話し合うことができる。	自・コ・情
○自分や相手ができることや必要なものについて、お互いに意見を出し話し合っているか。	視
○活動の対象者にはできないことや知らないことを考え、支援の方法や教え方を見出そうとしている。	自・役
○相手のことを考えた方法や教え方を考えているか。	視

【図 5】キャリア発達の観点に対する教職員の視点

実習の記録をもとに、学期末、年度末に実習の振り返りと自己評価するための実習振り返りシートを作成した。自分に身についた力を確認させ、自分や他人の良さに気付かせて自己有用感を育み、これからの自分に対する目標を考えさせることで、自他の理解能力、課題解決能力の向上が期待される。また、総合実習や教科内実習は知識や技術の習得も大きな目的であるので、勤労観・職業観の育成も期待される。

4 今後の課題とまとめ

(1) 農業体験活動プログラムの有効性

これからの農業教育には、農業を通じた学びと生き方を結び付けた指導・支援が必要であると考ええる。そのためには、キャリア教育を推進する必要がある、キャリア発達の観点での指導・支援していくことが欠かせないと考えられる。しかし、このプログラムで気付きを促し、キャリア発達の観点での指導・支援を実践できるか、生徒の学びや生き方に対する変容があるのかという課題については検証できていない。今後、検証して改善していく必要がある。生徒を指導・支援していくために教職員に活用して欲しいものである、生徒たちにとってより良いものへと改善していかなければならない。

(2) キャリア教育の推進

農業体験活動プログラムを使って体験活動を行うことで、キャリア教育に十分取り組んでいる、というイコールの関係ではないことを、教職員に理解してもらう必要がある。農業体験活動プログラムは、キャリア教育の観点での農業体験活動の実施をサポートするものであり、農業教育の中でキャリア教育を推進していくための1つのツールであり、第1歩であると言える。これからの農業教育が目指す方向性の中で、農業での学びと生き方を結び付けるためには、農業体験活動が肝要となるものであるが、農業体験活動のみで取り組めば良いというものではなく、学校教育全般で取り組んで生徒を指導・支援し、保護者や地域と連携していく必要もある。

そのためには、キャリア教育に対する共通理解を図ることが必要である。キャリア発達の観点で指導・支援するためには、キャリア教育への理解と実践に学校全体で取り組んでいかなければならない。そのための組織、体制作りも今後の課題であると考えられる。

(3) 農業教育の方向性に対する認識

農業教育でキャリア教育を推進していくためには、これからの農業教育に対するビジョンを、教職員が適切に認識しなければならないと考える。生徒や農業教育が抱える課題は何かを考え、今後の農業教育が何を目指していくべきかを考え、取り組んでいく必要があるだろう。また、交流体験等では、次世代に農業に興味・関心を持ち、農業を学びたいと思うことができるような、将来を見越した取組の在り方も考えていく必要があると考えられる。

《引用文献》

- 1) 佐野明『農業教育資料 58—これからの農業教育(1)—』実教出版 2006年5月
- 2) 浅沼茂『体験学習・体験活動の効果的な進め方—知の活用・実践と「体験」—』教育開発研究所、2007年9月
- 3) 有村久春『体験学習・体験活動の効果的な進め方—自己の出会いと成就感や自尊感情の獲得としての意義—』教育開発研究所、2007年9月

参考文献

「月刊高校教育 フリーター・ニート問題と高校生」学事出版 2005.6 香山リカ「就職がこわい」 講談社 2004.2
--

「進路指導 キャリア教育について」日本進路指導協会 2005. 4. 5. 9
「キャリア教育推進ハンドブック」神奈川県立総合教育センター 2005. 3
三村隆男「キャリア教育入門」実業之日本社 2004. 10
秋田稲美「ドリームマップ」大和出版 2006. 2
「キャリア教育の視点を生かした進路指導の工夫改善に関する参考資料」栃木県総合教育センター
2006. 3
「食農教育No. 46」農文協 2006. 3
「キャリア教育推進のための高等学校進路指導の現状と課題」日本進路指導協会 2006. 3
「研究開発実施報告書」広島県立西条農業高等学校 2004. 3
「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引」文部科学省 2006. 11
「キャリア教育資料集」国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2007. 3
山崎保寿「キャリア教育が高校を変える」学事出版 2006. 7
「馬路村キャリア教育研究発表会紀要・学習指導案集」馬路小学校・馬路中学校・魚梁瀬小学校・魚梁瀬中学校
2006. 12
「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」キャリア教育の推進に関する総合
的調査研究協力者会議 2004. 1
「農業教育資料 51-61」実教出版 2005. 12-2007. 6
「体験学習・体験活動の効果的な進め方」教育開発研究所 2007. 9